

●SINGLES

1. Wyndham Hill - *PAUL ROLAND & THE HELLFIRE CLUB*  
イギリスの小説家兼ミュージシャン。深い森から聞こえてきそうなエコーのかかったボーカルに、寂しげなストリングスが寄り添う。歌詞も含めて、今にも物語が始まりそうな気分させられる。
2. Walkin' on the Moon - *KATY MOFFATT* 和む。
3. The Lonely One - *TERRY HUFF & THE SPECIAL DELIVERY*  
哀愁漂う国宝級のファルセットボイスと、曲自体のもつ切なさがぴったり合っている。しかし、いつからか、曲を聴くたびにアルバムのジャケットの「ナマズひげ」を思い出すようになってしまった。どうでもいいことなのだけど、気になって仕方がない。
4. Silver Street - *JACOBITES*  
以前も書いたが、最初で最後の来日公演を見た人がうらやましい。
5. Erica's Word - *GAME THEORY*  
日本には相対性理論というバンドがいる。
6. Look At All the Lonely People - *THE TRUE REFLECTION*  
後にTemptationsのメンバーとなるGlenn Leonardなど実力者を擁したソウルグループ。この曲は唯一のアルバムの最後を飾る壮大なバラード。
7. Chasing a Bee (Inside a Jar) - *MERCURY REV*
8. Sweet Sir Galahad - *FOLKAL POINT* 透き通った女性ボーカルが素敵。
9. Can't Find the Answer - *THE COST OF LIVING*  
Replacementsのような、爽やかなカレッジロック。純粋無垢で良い。
10. Ain't Gonna Cry (Over One Girl) - *KENNY HAMBER*
11. Conversation with a Ghost - *ELLIS PAUL*  
ボストンのフォーク系シンガーソングライターの初期の名曲。シンプルでひんやりとした音の触感は、神秘的でさえである。バックの女性ボーカルは、メジャーデビュー前のPatty Griffin。
12. Release Me - *JOHNNY ADAMS*
13. Teen Line - *THE SHIVVERS*
14. Baby You've Gotta Stay - *ANGEL PAVEMENT*
15. Time Will Do the Talking - *PATTY GRIFFIN*
16. Signal Your Intention - *HODGES, JAMES & SMITH*
17. Song for Martha Lee - *THE FLOATING HOUSE BAND*  
ジョン・フェイヒのTakomaレーベルからデビューしたフォークグループ。大らかで牧歌的でコーラスは、一緒に歌いたくなる！
18. Sea of Life - *ARK*  
穏やかな波に揺られて気持ちよくなっているイメージ。
19. Secret Heart - *RON SEXSMITH*  
Feistのカバーも気に入っている。
20. Respuestas Que Hoy Quisiera - *MIGUEL Y EUGENIO*
21. Look Towards Tomorrow - *ROHRBACKER, HENDREN & KINGEN*
22. Like Calling Up Thunder - *THE GUN CLUB*
23. A Fool's Paradise - *LAZARUS*  
いいところでフェイドアウトしてしまうのが玉に傷。
24. 5-10-15-20 (25-30 Years of Love) - *THE PRESIDENTS*

25. You - *THE AQUATONES*
26. The Progressive - *STARDEATH and WHITE DWARFS*
27. Unknown Happiness - *MAHER SHALAL HASH BAZ*
28. So Much - *NIGHT SHADOW*
29. That Lonely Feeling - *DEAN FORD & THE GAYLORDS*
30. May First - *YANOSKA*
  
31. Gaugin's Dream/What Keeps Me Here? - *JEFF JOHNSON*  
基本的に静かなピアノの弾き語りの曲だが、途中から割り込んでくる、囁くようなシンセの音色が心地よい。南国の島で星降る夜に聞きたい(勝手な妄想)。
  
32. Wherever You Go - *SKIP MAHOANEY & THE CASUALS*  
ソウルで一番好きなジャンルはボーカルグループ(ジャンルとは呼べないかも?)。これも典型的なボーカルグループだと思っていたのだが、最近のライブ映像を見ていると、ファルセットのパートと、力強いソウルフルなパートは、実は同じ人が歌っていたことが判明。残りの人たちは、踊っているだけだった。
  
33. Something Happened To Susie - *SABORIAN & THE LOS*
34. Ives Horizon - *GORDON GILTRAP*  
フォークギターは、クラシカルなものより、ジャカジャカ鳴っているほうが好み。
35. Martin and Me - *EMMA TRICCA*
36. The Otherside - *THE APPLE*
37. Road to Jamaica - *LEOPARDS*
38. Robin - *SEVENTH DAWN*
39. I See - *THE SIXTH STATION*
40. Please You No More - *FABULOUS KNOBS*  
NRBQのようなバンドを目指して、Terry AndersonがGreer~Arroganceの元メンバーらと結成した、ニューカロライナ州のバンド。ボーカルがDan Bairdに代わってからは、ウッドベッカーズと改名する。(84位へ続く)
  
41. Someday - *STEVE EARLE*  
裏方のソングライターとしての仕事をした後デビュー、カントリー歌手の若手ホープとして注目される。しかし、ドラッグ中毒のため音楽界から追放されたような状態になった(ドラッグの売人の女性と結婚したこともあった)。何年か更生施設で暮らした後復帰してからは、レゲエでも何でも様々なジャンルの音楽を吸収するようになり、現在はグラミー賞候補の常連となっている。Somedayはデビュー作からのシングルで、田舎町でくすぶっている自分が嫌だ、いつの日か脱出したいという内容。
  
42. Song to the Siren - *TIM BUCKLEY*  
フリージャズやサイケデリックの流れに乗っていた時期の代表曲。たぶん最もカバーされている曲でしょう。ただ、アルバムStarsailorのほうは、何度聞いても難解。
43. Modern Lovers - *FAY RAY*
44. Hey Girl - *BROTHERS TWO*
45. Demolicion - *LOS SAICOS*  
60年代のガレージロックはBeatlesに触発された大勢のアマチュアバンドとされるが、中でもガレージパンクと呼ばれるものはむしろDick Daleなどサーフミュージックの影響のほうが強い。
46. Dream Sequence 1 - *PAULINE MURRAY AND THE INVISIBLE GIRLS*  
舌足らずな歌い方が良い。
47. Cavalo-Ferro - *QUARTETO EM CY*  
もともとブラジルの4人姉妹で、グループ名はメンバーの名前が全員Cyで始まることに由来する。このFagnerの曲をカバーした70年代前半は、メンバーを入れ替えて(名前がCyでないが)、トロピカリズムの音楽を積極的に取り入れるなど、人気は低迷しながらも模索していた時期。
48. Girls - *ELENI MANDELL*  
トム・ウェイツの影響が強く、バーでピアノを弾きながら歌う風景が思い浮かぶ。
49. This Storm Shall Surely Pass - *FRASER & DeBOLT*
50. Lydia - *GLOWFRIENDS*
  
51. The Sky Children - *KALEIDOSCOPE (U.K.)*
52. All Your Dreams - *ACTION NOW*

53. Summer Babe - *PAVEMENT*

独特の脱力感をもつ Pavement の音楽は、Seadoh と共にローファイと呼ばれ、90 年代初頭に台頭したグランジとは一線を画していた。これは、一番ギターがやかましかったデビュー時の曲。

54. Stratospheric - *BUDDHA ON THE MOON*

55. Waidmannsheil? - *A LA PING PONG*

甘い音色のギターがふわふわするアンビエント・ミュージック。マニエル・ゲッチングの「Dream and Desire」みたいな感じ、というか、間違いなく影響を受けているだろう。

56. Angel on My Shoulder - *SHELBY FLINT*

ジョニ・ミッチェルがお手本にしたという、ウイスペア・ヴォイスのフォーク歌手。

57. Northern Sky - *NICK DRAKE*

姉 Gabrielle Drake (綾波レイのモデルになった女優) が、最近ようやく Nick Drake を語るようになった。死因は事故よりも自殺と考えているのだとか。

58. Send Down An Angel - *ALLISON MOORER*

Shelby Lynne の妹。いい曲が多くて選ぶのに苦労する。

59. Faraway - *FARAWAY FOLK*

60. Undecided Love - *THE CHEQUERS*

61. Sprig of Thyme - *GARRET SINGERS*

62. Toutes les Nuits - *LES CALAMITES*

60 年代ガールグループに影響を受けた、可愛いパワーポップなのだが、バンド名はフランス語で「大災害」という意味らしい。

63. I'm in Love with a Girl Who Doesn't Know I Exist - *ANOTHER SUNNY DAY*

タイトルが不気味だが、曲は 2 分弱のシンプルなアコースティックのバラード。

64. Propellers in Love: Harmonics - *ARNOLD DREYBLATT AND THE ORCHESTRA OF EXCITED STRINGS*

65. We Shall All Be Reunited - *ALFRED G. KARNES*

66. I Don't Know Why - *SHAWN COLVIN*

やっと昔(1975 年)のセッションテープが聴けたが、中身は至って平凡なフォークロックだった…

67. (I Know You) Shake It - *THE ELVIS BROTHERS*

一度聴いたら忘れない、疾走感のあるひねりの効いたメロディー。もっと売れるべきだった。

68. Canadee-I-O - *NIC JONES*

69. I'm So Sad and Lonely - *LELAND*

ヨシツという名前からすると、日系人か。

70. Don't Take Me Loose - *GREENFIELD & COOK*

71. Lazarus - *SURPRIZE*

72. Ce Soir Je M'en Vais - *JACQUELINE TAIEB*

73. Cigarette Dangles - *THE PURSUIT OF HAPPINESS*

74. Cool Livin' - *JOHN YLVISAKER*

75. Jerusalem - *SIMON FINN*

アシッドフォークには、雰囲気が良いだけのものと、個人の感情を全面に押し出したものとあると思うが、これは後者。この曲のエネルギーと云ったら、世界中の悲しみや怒りを一所に集めたかのように、空間さえも歪ませてしまいそうな勢いである。三上寛も影が薄くなるほどクレイジーなボーカルは、地獄の底からの叫び声にも聞こえる。フォークギターとオルガンは淡々と演奏されているが、その分かって恐怖感を煽っている。セカンドアルバムが出るまで四半世紀も沈黙していたのも、納得できる話ではある。

76. San Diego Zoo - *THE 6THS feat. BARBARA MANNING*

ほのぼのしたビデオクリップが好印象。

77. In Doves - *X-TEENS*

78. A Woman Only Human - *GLORIA WILLIAMS*

79. Reachin' - *HACKAMORE BRICK*

80. You and Your Sister - *CHRIS BELL*

「The Letter」の No.1 ヒットをもつバンド Box Tops のメンバーといえば、Alex Chilton が有名だが、他にも Chris Bell などソロでも活動する実力者が多い。若くして交通事故で他界したが、90 年代になって発掘されたソロ作品集は、生きているうちにアルバム出しておけば、と思わずにはいられない名曲揃い。You and Your Sister は数少ない生前出したシングル一枚で、This Mortal Coil のカバーも絶品。

81. Native Stepson - *SONNY LANDRETH*

スライドギターが好きな人には、この人のライブの DVD がお勧め。ギター一本で自由自在の音を出して、カッコよすぎます。

82. Spinning Around - *BLACK IVORY*

83. Tanzmusik - *KRAFTWERK*

デビュー時はフリーなロックをやっていたが、次第にシンセサイザーの割合が増え、この曲を含むアルバム「Ralf und Florian」ではドラムが消えてポップな電子音楽になった。「Autobahn」のようなボーカルが入る以前の、ミニマルできらきらした音色のエレクトロミュージック。

84. Let's Talk - *THE WOODS*

(40 位から続く)ウッドペッカーズからダン・ベアードが抜けてジョージア・サテライトに移った後、ウッズとさらに名前を変更。ジョージア・サテライトと同じ曲を演奏することもあるが、こちらは汗臭さを感じない爽やかなポップロック。

85. Cold Hungry Blues - *PO' GIRL*

86. La Chanson Bête et Méchante - *CLOTHILDE*

87. Janitor - *SUBURBAN LAWNS*

タイトルをある単語(下ネタなので書けない...)と聞き間違えた、という曲。

88. Create in Me - *SISTER MONICA KAUFER*

89. Where Do You Go To (My Lovely) - *PETER SARSTEDT*

映画の中で延々と流れていて、頭から離れなくなった。

90. How Long - *ALLISON CROWE*

91. Work It Out - *BREAKWATER* お洒落でロマンチック。

92. Crystal Clear - *CONDELLO*

93. Fussing and Fighting - *BOB MARLEY & THE WAILERS*

94. Drug Song - *DAVE BIXBY* 厭世フォーク。

95. Teenage Days - *HILLY MICHAELS*

能天気なポップソングばかり作っているイメージだが、セッションドラマーをやったり、渋いフォークを歌っていたりした時期もあるらしい。

96. Satellite - *DAVE MATTHEWS BAND*

ずっとこの辺りに投票し続けている気がする。

97. Universal Child - *DIANNE STEINBERG*

98. Skin Game Blues - *PEG LEG HOWELL*

99. Himig ng Pag-Ibig - *ASIN*

100. Don't Ask Me (To Ever Stop Loving You) - *NORFOLK*

## ●ALBUMS

1. Little Earthquakes - *TORI AMOS*

Y Kant Tori Read というロックバンドで Atlantic からデビューするも、ほとんど売れず、失意の中作った最初のソロアルバム。とても内省的な内容だが、ポップで楽しい側面もある。木箱の中で Tori がトイピアノを弾くジャケットは、アルバムの中身を的確に表している。

2. On Fire - *GALAXIE 500*

最近、同名のカナダのバンドがいるが、本家が解散しているから問題ないということか。

3. Yerself Is Steam - *MERCURY REV*

CD2 枚+DVD のデラックス盤で聴くのが正しい。

4. The Duel - *ALLISON MOORER*

離婚の最中に録音したためだろうか、重たいアルバムである。特に前半は、Neil Young & Crazy Horse に影響だと思われるが、ノイジーなギターを鳴らして、さらに Allison の低いソウルフルな歌声が相まって、一層重たい印象がある。Steve Earle と結婚して以降はポップで明るくなって、個人的には少々残念だが、そんなものか。

5. Living with Ghosts - *PATTY GRIFFIN*

最初はデモテープだったが、マネージャーが気に入り、そのままアルバムとして発売されることになったというデビュー作。最初から最後までギター一本で歌っていて、生々しく力強い歌が濃縮されている。遠くに救急車のサイレンの音が聞こえる曲もあるので(スタジオの向かいに病院があるらしい)、A&M というメジャーレーベルでありながら、本当に何もアレンジされなかったようだ。

6. I Want to See the Bright Lights Tonight - *RICHARD & LINDA THOMPSON*

7. There's More to Living Than I Know - *LINDA RICH*

8. Uncle Jam Wants You - *FUNKADELIC*

投票するのは1stだったり Maggot Brain だったり、いろいろ変わりますが、70年代のスタジオ作はどれも良いです。

9. Don't Hide Away - *LOU HAYLES*

ストリングスを多用し、ミッドテンポのメロウな曲だけで構成されたクリスチャン・ポップス。CCMという生ぬるい音楽が多いイメージがあるが、これは例外。すりガラスを通した春の陽光のような温もりが一杯に詰まっている感じ。元々 Meet Jesus Music というゴスペルグループのメンバーで、現在は Lou Lewis という名前で活動中。

10. Squeezing Out Sparks - *GRAHAM PARKER & THE RUMOUR*

11. Boys for Pele - *TORI AMOS*

高校生のころ、すり減るほど繰り返し聴いた(CDなのに)、自分にとって特別なアルバム。今でも、当時の思い出が蘇る。思い入れを別にしても、初期3枚はどれもシンガーソングライター史上に残る傑作。

12. Paix - *CATHERINE RIBEIRO & THE ALPES*

カトリーヌ・リベイロは、当初は女優としてゴダールの映画にも出演したり、歌手としてたまにポップス歌ったりしたが、60年代末から突如プログレの世界へ。Paix を含むこの時期のアルバムは、呪術的なまでに反復するドラムが延々と続く中、リベイロが呻いて叫んで、深い精神世界を表現する。80年代はシャンソン歌手になってしまったが、最近はこの時代の曲も再演するようになった。ところで、4枚組の編集盤出すくらいなら、一枚のベスト盤か、アルバム一枚ずつ再発するかしてほしい...

13. Penguin Eggs - *NIC JONES*

14. From Summer to Another Summer (An Egypt to Another Egypt) - *MAHER SHALAL HASH BAZ*

15. Deserter's Songs - *MERCURY REV*

16. A Cabinet of Curiosities - *PAUL ROLAND & THE HELLFIRE CLUB*

17. Riversong - *MARK HENLEY*

18. Eric Taylor - *ERIC TAYLOR*

元妻のナンシー・グリフィスに知名度で相当水をあけられたが、長かったブランクと地味すぎる音楽性が原因か。いぶし銀のような渋い魅力を放つセカンドアルバム。

19. Now - *KIM JUNG-MI*

20. A Fool's Paradise - *LAZARUS*

21. Acadie - *DANIEL LANOIS*

22. Farewell to the Shadowlands - *RISING HOPE* 子守唄フォーク。

23. Nina Simone and Piano! - *NINA SIMONE*

24. Whose Idea of Fun Is a Nightmare - *STEPHEN C. ROSE & BILL HORWITZ and FRIENDS*

25. Ommadawn - *MIKE OLDFIELD*

元気なうちに生で見たい。

26. Morning Way - *TRADOR HORNE*

27. Entain - *VLADISLAV DELAY*

おそらく世界で一番重苦しい音楽。フィンランドの白夜のせいだろうか。

28. Our Eternal Ghosts - *DEADMAN*

29. Johnson's Whacks - *JIMMY JOHNSON*

30. Roads of Tomorrow - *REX FOSTER with DON & MERRILY*

夕日(朝日?)の中ギターケースを持って歩くジャケットが印象的。

31. More You Becomes You - *PLUSH*

32. Lulu - *TRIP SHAKESPEARE*

Closing Time がエアプレイで大ヒットした、メンフィスのパワーポップバンド Semisonic の前身。最近の Semisonic は、メンバー間の不和により、インディーでソロ活動している様子。

- 33. Nightbird - *KAPLAN BROTHERS*  
日本の時代劇のサウンドトラックのよう。
- 34. Adventures for 12 String, 6 String and Banjo - *DICK ROSMINI*
- 35. No.1 - *MOSAİK*  
マハヴィシュヌ・オーケストラの影響大か。
- 36. The Crying of the Generation - *BILL CLINT*
- 37. Stargard - *STARGARD*
- 38. Hurricane Child - *LORI B*
- 39. Syrup Macrame - *RADIAL SPANGLE*
- 40. The Lost Jockey - *THE LOST JOCKEY*  
現代音楽は、個人的にもっと開拓していきたいジャンル。

●ARTISTS

- 1. GEORGE CLINTON  
先日の東京 Jazz で、初めて生で見た興奮が冷めない。
- 2. TORI AMOS  
クリスマスアルバムを出すようだが、クリスマスという単語を使わないなど宗教色を出さない配慮がしてある。
- 3. NIKKI SUDDEN
- 4. PATTY GRIFFIN 日本盤が出ないのは、ほとんど犯罪。
- 5. MERCURY REV
- 6. ALLISON MOORER 今後も期待しています。
- 7. GRAHAM PARKER  
もはや注目されていないかもしれないが、近年もソングライティングは衰えていない。
- 8. THE FLAMING LIPS サマーソニック楽しかった。
- 9. PAUL ROLAND
- 10. DAVID BOWIE
  
- 11. BOB DYLAN
- 12. NRBQ
- 13. THE RESIDENTS まだ知らない人には、「Icky Flix」という DVD がお勧め。
- 14. JOHN FAHEY アルバムが残りあと一寸集まらない。
- 15. PREFAB SPROUT
- 16. RUSH
- 17. IVAN LINS
- 18. GRETCHEN PETERS
- 19. MANUEL GOTTSCHING
- 20. BRIAN ENO

会社員になってからずっと、目が回るくらい忙しい日が続いたのですが、急に余裕ができて、先月からクラシックやジャズのコンサートにちよくちよく行っています。サマーソニックも 5 年ぶりに見に行きました。が、何しろ最近の音楽に疎くなっているので、現役生の方の All-Time を見て勉強させていただけようと思っています。

相変わらず孤独票だらけの All-Time を作っていますが、ビル研には懲りずに顔を出す予定ですので、よろしく願います。

21 期みやもと